

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を職員全員で見直し、住み慣れた地域での安心した暮らし、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援を事業所の理念とした。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらっている。また、ミーティングや申し送り、関わりの振り返りのときにも必ず理念に基づいたケアをしているか確認しあっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、訪問時・家族会・介護予防教室・季節の行事など折に触れ伝えている。地域住民には設置前から理念・役割等の説明会を開き、また、情報紙を発行し配っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎週近所の方々が来て入居者とおしゃべりやゲームなど楽しい時間を過ごしているので、職員共々馴染みの関係にある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域でのイベントにはお弁当持参で出かけたりする。また、老人クラブの金ママの会は、毎週金曜日合同の楽しい時間を過ごしている。保育園児が遊びに来て神楽舞を披露することもあり、入居者は涙を流して喜んでいる。	○	6月には避難訓練を消防署職員と共に実施する予定で、地域にも案内を出し共に参加する予定である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は、事業所の実践的内容を踏まえて地域の人々に事業所を開放し(開設当初から1室設けている)高齢者の暮らしに役立っている。また、実習生を受け入れて人材育成に貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。	○	6月の避難訓練には、運営推進委員、地域の人々も参加し意見交換をする予定である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3カ月に1回の会議を開き、事業所からの報告、参加メンバー(利用者、家族、地域住民、行政職員)との意見交換し、共通理解を図っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの介護予防教室の委託を受けているので市職員との関係もあり、またグループホームは市の管轄なので折に触れ助言してもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を受け、その資料で勉強会を開いて職員の理解を深めるようにしている。この制度の必要な利用者について職員に説明し、利用者の支援につなげている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会での資料などで勉強会や、ミーティング等を実施し高齢者虐待防止法に関して理解するようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者、家族等に丁寧に説明している。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際については詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の話を聴いたり、言葉や態度からその思いを察する努力をし、ミーティングや勉強会の際に話し合っ解決に努めている。また、家族等から聞くなどして、入居者の相談にのっている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問時には、家族に日頃の入居者の様子を話したり、定期的に瓦版を発行、絵手紙でお便りを出す、まめに電話をするなどして様子を知らせている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何でも行ってもらえるような雰囲気作りに留意しており、訪問時・電話連絡の際に何でも言ってもらっている。ご意見箱も設置してある。必要事項があれば、ミーティングで話し合い反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、勉強会等で意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、働く意欲の向上に努めている。運営を円滑にするために職員全員に役割分担をし、自分たちで考え取り組んでいる。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じた柔軟な職員の勤務体制を行っている。夜勤者は必ず夜間の入居者の状態を管理者に朝7時に報告、それを日中の支援に活かしその結果は記録して共有するようにしている。夜勤者も日勤を行うことがあるので、入居者の24時間の関係ができています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者、家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、2ユニットのみの運営なので日頃から全職員が馴染みの関係になっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修にはパートの職員も参加し、研修報告はミーティングや勉強会等で発表してもらい、研修記録・研修資料を全職員が閲覧できるようにしている。また、それぞれに運営上の役割を持ち、責任を持って職務に当る心構えを養っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月に地区内のグループホームの研修会や相互研修があり、また勉強会持ち話し合ってサービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩時間を設け、その際には運営者は同席しないようにしている。また、年に2回親睦会を持ち、腹藏なく話し合える場を作っている。シフトを組む際には、日頃の職員の話からストレスのないような組み方をしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるよう、その職員に適した役割分担を自分たちで考え、意欲を持って働けるようにしている。職能評価を行っている。また、労働基準法に則した就業規則があり健康診断等も行っている。	○ 自己評価表を職員と共に作り、実施し、向上心につなげるようにすることにした。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談でのモニタリングは本人、家族同席のもと行い、ホーム内の見学・説明・すでに入居されている入居者との会話などから本人としっかり向き合い関係づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	よく家族の話聞き受け止めて、信頼関係の構築に努めている。不安な点については、納得のいくまで説明したり入居者と触れ合ったりしてもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、状況の確認・改善の提言など家族と納得の行くまでの話し合いを持ち、更に必要な機関につなげることもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の納得、心理的不安解消のため、ホーム内の説明や利用者との語り、必要であれば家族と宿泊するなどしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の中にも入居者と職員の立場を明確にしており、お互いに協働しながら生活する場であるという確認のもとに穏やかな毎日を過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時においては、入居者、家族、職員と共にエピソードを語り合いながら共に支えていく関係の構築をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のよい関係作りのために、絵手紙を出す、電話をかけるなどの支援を行い、両者の話をよく聞いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって大切な家族、友人の訪問を歓迎し、訪問しやすいような雰囲気づくりをしている。馴染みの場所へドライブをして、思い出を聞いたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係については、日頃の様子から一人ひとりの個性やお互いの関係がわかっているので、円滑に穏やかに過ごせるよう働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後、亡くなったなどの情報が入れば弔問に伺っている。また、認知症が軽減されて自宅に戻った方からは電話があったり、こちらから自宅を訪問したりもしている。	○	先日は食用菊の苗があるので持っていきませんかと連絡が入り、職員2人が赴き頂いてきた。
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々生活の中で言動から見守っている。意思疎通の困難な場合も日々の支援の中で本人本位に検討したり、家族より情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込時に家族・本人に聴いている。入所してからも細かい点等面会時に再三聴く様にしている。また、生活している中で本人より時々聴き確認している。	○	センター方式を取り入れているが、難しい点があるので検討したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床から就寝までの生活のリズムを見守りの中で把握し記録し、変化のあった点等情報としてミーティング等で全職員が共有している。	○	今後も暮らしの変化はミーティング等で検討していく。変化はその都度家族に連絡する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聴いている。また、モニタリング、ミーティングを通して職員から意見を聞きケアプランに活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身面の変化について、すぐにミーティングで話し合いをして計画を作成している。また、家族にもすぐ変化について連絡している(リハビリ計画書、褥瘡予防計画)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・水分補給等を個別に記録している。また、その日の暮らしの様子やエピソードを記録し、職員間で情報を共有している。勤務開始前の確認を徹底している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	宅老所に場所を提供しているので、一緒に楽しい時間を過ごし、職員はその受け入れに協働している。日々の生活の中で要望に応じた対応をしている。24時間健康管理を行い、入院の回避に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	インフォーマル資源を普段から活用している。ボランティア、警察、消防、公民館等と連携を取り安心して生活できるように対応している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のケアマネジャーと話し合いをしている。本人の希望により、訪問利美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	レベル維持、介護予防に向けて協働している。2ヶ月に1回定期的に運営推進委員会を開催。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家庭の希望に基づき受診をすすめている(定期的受診)。また、家族の同意を得て通院介助も行っている。緊急時、協力機関を利用している。	○	受診・入院記録を今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日常生活の中で変化が生じた時など記録を持参し、指示をいただいて対応している。状態に応じ、認知症・精神科の困難な事例にも家族と協力し受診をすすめている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	普段の状態を理解し、異常の早期発見に努めている。看護師が観察を行っており、24時間連絡が取れる体制である。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会に出向き、家族、病院の看護師より状態を聞き、安心して過ごせるように計画を作成し職員間で共有している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向を十分に汲取り、意思確認をしている。文書も作成している。終末期の説明を家族に行い、職員間で対応の仕方について理解をすすめている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に向け、勉強会で職員が落ち着いて対応できるように準備している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージが最小限となるように、細かい情報をいただいたり家族の協力を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保には守秘義務の署名をもらい、日々の関わりについても具体的なところでプライバシー確保の確認をし合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の関わり合いの中から希望・自己決定の場面を作り、それに添って支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやニーズに添って職員は入居者に合わせていく姿勢・実践を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の持っている衣服の中から、日常と受診・外食・イベント参加など場面にあったおしゃれの支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事づくりは、入居者の希望を聞き、メニュー、食材、切り方、味付けに反映させている。季節の山菜(ばっけ、ふき、みず、つくし、わらび)を近くの野辺に採りに行き好みの料理に調理している。また、畑で野菜を収穫し、一緒に調理したり、梅干、干し柿を手づくりし日々の食事に保存食として活かしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を把握し、日々の献立に取り入れたり苦手なものを他の食材に変える等、個人の好みを尊重している。また、好きなオヤツを一緒に作ったり、買いに行ったり、誕生日には好みのケーキでお祝いしたりしている。お酒・タバコをたしなむ人は現段階ではない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄は一人ひとりのパターンを捉えて実情に即した対応をしている。オムツについても、普通のパンツ式、2WAY式と利用者に合わせて使い分けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気温、入居者の心理的・身体的な実情に合わせて行っている。入浴後、「気持ちよかった」の声が聞けるよう職員の言葉かけや対応についてミーティングを行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者個人に合わせて日中休息できる安楽いす、ソファを用意し、一人ひとりに合わせた睡眠の確保などは職員で話し合い実行している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意分野や好みを知り、食事づくり、おやつづくり、畑仕事、針仕事、編み物、縄ないなどお互いを認め合いながら力を発揮し楽しんでいる。また、季節の行事を大切に、行事用品を手づくりしたり歌をうたったりして楽しんでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理できる人は一人もいないが、小遣い銭を預かっているのをその中から手渡して、本人に支払ってもらっておやつを買うなどしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほとんど毎日本人の心理的・身体的状態を見て散歩に出ている。雨の日でもドライブに出たりして楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、イベントへの参加、外食など月1回の程度で外出の機会をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の際には、入居者にも受話器を渡して家族と話してもらったり、絵手紙教室で描いたものを2ヵ月に1回家族に出したりしている。家族や友人からの手紙や年賀状等をももらったりもする。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方には、入居者とゆっくり過ごせる場として居室、ふれあいルーム、相談室などを使ってもらっている。家族水入らずの時間を過ごせるよう配慮していて、訪問する楽しさを味わってもらい再訪への働きかけしとている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束廃止いわて宣言』を貼り出し、身体拘束をしないケアについての意識づけをしている。また、研修や勉強会等で身体拘束に関する職員の共有認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不穏な状態の入居者には、積極的に散歩やドライブに誘い不安の解消に努め、落ち着いた状態で過ごせるようにして鍵をかけない工夫につなげている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアの職員が見守りをし、夜間は夜勤者が22時、0時、3時の定時の見回りの他、物音がしたとき、排泄時などにはその都度対応するようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者所有の危険物は、本人と家族に説明し了解を得て保管するようにしている。本人が希望する場合は、職員の見守りの中で使用してもらう。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	担当に当たった職員はヒヤリハットを記録し、管理者・職員を交えて共有認識を図り、その対策について検討し再発を防ぎ、家族への説明と報告を行っている。また、予測される事故(転倒・窒息・誤薬・行方不明・火災等)防止の学習を行い、事故防止策を学び具体的な方法を共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変や事故発生に備えて、全ての職員が勉強会に参加し、消防署で行っている救急手当てや蘇生術の研修に参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年1回行っている。	○	6月5日に消防署職員の指導のもと、入居者、全職員、運営推進委員、地域のボランティアさんたちと避難訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	さまざまな入居者に対応しながらも、日々抑圧感のない暮らしの工夫をしながら安全確保に努め、家族にも理解していただいている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変について気づいた際には速やかに報告し、また情報の共有に努めるために個別に記録し、ミーティングで全職員が共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の名前、効能の一覧表を作成して職員全員がその内容を把握し、また毎月1回の勉強会を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	スムーズな排便のための日中の散歩、廊下の歩行などで運動量の確保に心掛けている。また、排便の記録を取り、2～3日排便のないときには漢方薬を用いることもある。十分な水分補給の他、寒天やゼリーなどの食材も取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後はお茶を供し、また声を掛けて歯磨きの徹底を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、残食量をチェックしている。食欲が落ちたときには、その人の好みの献立にし柔軟に対応、低栄養にならないよう配慮している。定期的な大まかなエネルギー・蛋白質・脂質をチェックし、バランスのとれた食事を提供できるようにしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の研修会に参加し、マニュアルを作り、うがい・手洗い・消毒を毎日徹底している。今年はノロウイルスが近くで発生したが、当事業所では発生を防げた。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	古い食材が残らないよう、材料は3日で使い切っている。まな板、ふきんは漂白し、清潔を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に手作りの案内板があり、建物内には案内図がある。入り口は広く、ゆるいスロープにもなっているのでシルバーカーや車椅子などでも通りやすい。また、プランターを置いたり絵を飾ったりしている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間となっているそれぞれの場所に花があり、外を眺められる窓もあり、庭や畑もあるので季節の移ろいを十分に汲取れる。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同志、陽だまりの小さな共有スペースの椅子で談笑したり、時にはベランダで会話を楽しんだりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	使い慣れたものを持ち込んだり、本人の好みのもを持ち込 んだり、家族の写真を貼ったりと心地良い空間にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	冬でも晴天時には窓を開放したり、寝具(ベッド)を外気に当 てたり、衣類をこまめに調節するなどして温度調節をしてい る。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	車椅子にも対応できるよう、広いトイレ、廊下、手すりなどがあ り、なるべく自立して生活出来るよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室に名前を表示し、浴室・トイレなどには目印を表示して いる。建物全体に段差はない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ウッドデッキ、広い庭、畑があるので、日常的に利用し活動し て楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・新幹線の駅、賢治記念館、博物館、新渡戸記念館、童話村など、さまざまなイベントへの参加が容易にでき大いに楽しんでいる。また、外出傾向の入居者を積極的に希望に添って連れ出して穏やかな時間が遅れるようにしている。

・職員に看護師、管理栄養士、社会福祉士等がおり、それぞれの職分で入居者としっかり向き合い、他の職員も入居者本位に考えた支援を行い、その人らしい尊厳を保ちながら安心して穏やかで笑い声の絶えない日々を過ごしている。